

かけはし

氷見

KAKEHASHI HIMI



患者さんと病院と
地域をつなぐ広報誌

TOPICS ●トピックス

新年のご挨拶

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL



氷見線を優雅に走る観光列車 (べるもんだ)

CONTENTS ●もくじ

TOPICS	新年のご挨拶	P.01
	健康づくり教室	P.03
特集	社会に学ぶ「14歳の挑戦」	P.04
	外来患者さんの満足度調査結果	P.04
	井口先生の診察室から	P.05
	病院★ニュース	P.06
	病院からのお知らせ掲示板	P.07
	診療コラム	P.08
	まちかど情報	P.09

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。

新年のご挨拶

最高経営責任者（CEO）

高島 茂樹



明 けましておめでとうございます。今年、エル

ニーニョ現象の影響で、厳しい寒波の到来もなく暖かな恵まれた天気の中で、正月を迎えられたことと思います。

昨年は、世界的に、特に欧米を中心にテロの恐怖にさらされた年であり、世界全体が民族問題や宗教問題、更には貧困がクローズアップされた年だったように思います。また、我が国では国の大きな政策転換である安保関連法案の制定や、鬼怒川の大洪水、大手建設業者の不正などが話題を呼んだ年でした。一方、北陸、水見を中心に考えますと、北陸新幹線の開業や能越道水見〜七尾間の開通など「平成維新」と言われるほど非常に交通アクセスが良くなった年でもありました。

病院は、金沢医科大学が指定管理者となつて9年目を迎えることとなります。この8年間で開設当初の厳しい状況を知っている職員は少なくなっていますが、これまで右肩上がりに実績が伸び続けてきたことは、先人を含め皆さんの努力と協力の賜物だと感謝しています。ただ、ここ2年近く、横ばい状態にあることから、現状を打破するための新たな施策が必要と考えます。運営面では、PET・CTや放

射線治療装置であるリニアックを備えた、がんセンターの開設、また内科外来部門の拡充など積極的な資本投資を考えていますが、いろいろな点で市の許可を得なければならぬ不自由さがあり、行き詰まりを感じています。また、今年4月の診療報酬の改定でもその伸びはほとんど期待されないこと、来年は消費税が8%から10%と増税されることが明らかになっており、これまで以上に病院経営の面では厳しいことが想定されます。

今年の国の予算はこれまでにない大きなものになり、中でも医療の予算は1兆円を超え、年々増加の一途をたどっています。そのため、国としては医療費を抑制する政策をとらざるを得ない現状にあり、今盛んに言われている「地域創生」の観点から地域医療はどうあるべきか、また本院の果たす役割は何かをゆつくり考えてみるべき時期に来ていると考えます。

「2025年問題」と言われているように2025年には団塊の世代の人達が75歳以上の後期高齢者になります。同時に、これ以降の人口動態を推測してみると、高齢者が増加しながら全体の人口は減少するとされています。

このような高齢者社会が到来する中で、「本院が提供する医療はどうあるべきか」「また「地域のニーズに合った医療とは何か。」「医療格差をなくすためどうすれば良いのか」など真剣に考える必要があります。大学附属病院として、先進的な急性期医療の提供を軸に、病気に対する予防及びリハビリテーションを用いた早期社会復帰を実践すると共に、地域医療の中で医療と介護を結び付ける地域包括システムを確立する必要があります。そのためには病・病診連携だけでなく、全ての地域の医療関係者と緊密な連携を図り、情報の共有を心掛けることが

極めて重要です。

同時に、かかりつけ医と連携した在宅医療に対する配慮も病院として必要であります。このような観点から、これまで以上に地域医療連携部の役割は非常に大きく、人員配置を含め充実させていく必要があります。

次に、昨年の年頭でも申し上げましたが、私は「良い病院」とは

(1) 患者さんが安心して頼れる病院であること

(2) 職員にとっても働きやすい、働きがいのあるプライドの持てる病院であること

(3) 良い地域社会を作ることにつながる病院であること

の三点を考えています。

すなわち、医療レベルの向上と同時に職員全員が「滅私奉公」の気持ちで、患者さんに如何に気配りをしながら尽くすことができるかどうか、また風通しが良くそれぞれの職場の人間関係の中で毎日楽しく働ける病院であるかであります。同時に、水見の地域性を考えた場合、市民講座や健康づくり教室、更には親子ふれあいフェスティバルなどを通して、地域全体として医療レベルの向上を図り、維持していく事も病院の役割と考えます。

最後になりますが、病院を運営する者として今までの以上に医療と介護を密接に結び付けながら地域の発展を図るとともに、行政と医療関係者が連携して行けるよう努力したいと考えています。

これからの医療は「病気を治す」だけでなく、「患者さんを如何に早く平生の生活に戻す」か、更にそれを届けるまでフォローできるかが極めて重要になることを言い添えて終わりにします。

今年も皆様のご支援とご協力をお願いして年頭の挨拶とします。

病院長

齋藤 人志



皆 さん、あけましておめでとうございます。今年

の冬は暖かく年末年始も大変過ごしやすかったです。その反面、暖冬だと困ることもあり、氷

見のブランドであります寒ブリが全くと言っていいほど揚がらず、氷見の漁業協同組合関係も困り果てている状況と聞いています。さて皆様方には穏やかな気持ちで新しい年を迎えられたのではないかと思います。「1年の計は元旦にあり」ということで、それぞれに今年1年の計画や目標を定められたことと思います。当院においては、金沢医科大学が指定管理者になって今年で9年目を迎え、管理運営をするようになってあつという間に8年間が経過しました。医療の現場では、一昨年の4月から消費税の引き上げ、保険点数の改定、さらに厚労省の政策で急性期病床の大幅削減を目的に医療保険制度が大きく変わったことにより、一昨年より昨年とますます病院運営が



厳しい状況に追いやられております。と申しましたも患者さんには良い医療を提供し、患者さん中心の医療を展開しなければならぬことは当然のことであり、私達病院スタッフが一丸となって患者さんに優しい病院づくりに励んでおります。

私が目指す病院像としては「患者さんを愛せ」「スタッフを愛せ」「同僚を愛せ」「職場を愛せ」の精神で優しく思いやりのある気持ちをスタッフ一人ひとりが持ち、「患者さんの権利を考慮した患者さん中心の医療を提供すること」「安全で安心なチーム医療を提供できるように心がけること」「地域医療の中心となること」そして「人の気持ちを思いやり全人的医療の提供に心がけること」「職員同士もお互いに思いやる気持ちを忘れずに接することが出来る病院」などを常に心がけて業務にあたることで、とても素晴らしい病院になるのではないかと思っております。

さて新年にあたり今年はどうのような方策でいくかという事ですが、平成28年の病院運営の重点事業は、診療報酬改定に対応した健全な病院運営の継続が挙げられます。診療体制の充実として産婦人科、救急科、リハビリテーション科の常勤医師の確保や看護師・薬剤師の医療スタッフ確保並びに医療機器の整備などが挙げられます。一方、経費削減については薬剤部を中心に後発医薬品の採用を増やすこと、医療機器等の保守契約の内容見直しなどがあります。また、臨床研修医の確保と研修プログラムの充実については、現在の新専門医制度の導入準備を進めております。更には地域医療連携と地域貢献事業の推進をしたいと考えております。また、今後の構想としてがんセンター建設の計画、放射線治療機器及びPET-CTの導入を検討しております。PET-CTが導入されれば、がん治療や健康管理セ

ンターの予防医学にも役立つと考えております。また、病院中期事業計画については付属施設のがんセンターの建設、放射線治療装置、PET-CTの導入、それに合わせ内科診察室の待合室、診察室の拡張計画や駐車場の拡張工事なども考えております。

最後に、病院職員に求める6つの意識について、「経営参加の意識」「患者さん中心の行動と患者サービスの向上」「チームワークの推進・チーム医療の推進」「自己研鑽の実施」「個人情報管理の徹底」「職員間の挨拶とマナーの向上」です。この6つを意識して仕事に専念していただき、チーム医療をチームワークで地域に貢献できる明るい病院づくりを目指して行きたいと思っております。

最後に、皆さんの今年1年のご健康とご多幸を祈念して新年の挨拶とさせていただきます。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



金沢医科大学氷見市民病院

平成27年度

健康づくり教室



第4回

メタボと肥満のための健康法 摂取カロリーと食事の摂り方

平成27年9月19日(土)、「メタボと肥満のための健康法」と題して健康管理センターの松木伸夫センター長が講演を行いました。平均寿命や健康寿命を比較、メタボリックシンドロームの要因等を解説などから健康で長生きをすることをテーマに講演が行われ、いかにして健康寿命を延ばすかなど、元気な毎日を過ごすことについてお話がありました。

続いて、「摂取カロリーと食事の摂り方」と題して栄養部の長谷恵主任管理栄養士からバランスのとれた食事について解説を行いました。食事以外にも、



運動や間食について、またアルコールとの上手な付き合い方など日常生活の中で無理をせず楽しく摂取できる方法などの説明があり、参加者は興味深く聞き入っていました。

第5回

知っていますか？ 臓器のこと 〜 臓器の病気について〜

平成27年10月17日(土)「知っていますか？ 臓器のこと」と題して齋藤人志病院院長・一般消化器外科教授が講演を行いました。慢性膵炎や膵癌などの診断や治療に関して実際の手術の方法も交えて詳しく解説を行いました。

膵臓や胆道の病気に対しては住民健診などには含まれていない場合がある



ので、腹部超音波検査や腹部CT検査などの検査を積極的に受けることが薦められました。また「がんを防ぐための12力条」として食事や運動などの説明がありました。

第6回

症状が出にくい腎臓病 〜 あなたの腎臓は大丈夫？〜

平成27年11月21日(土)「症状が出にくい腎臓病」と題して齋藤淳史腎臓内科科長が講演を行いました。腎臓の構造やはたらきを解説した後、慢性腎臓病についての原因や症状、検査方法や治療についての説明が行われました。

また、予防や早期発見について生活習慣の改善や、定期的に健康診断を受ける



事、そして慢性腎臓病が疑われたら自覚症状が無いからといって放置せず受診するよう説明がありました。

修了式

第6回目の講演終了後には、今年度の健康づくり教室の修了式が行われました。平成27年度の健康づくり教室は全6回開催され、186名の方にお申込みいただき、延べ437名が受講されました。この中で4回以上受講いただいた65名の方に齋藤人志病院院長から修了証が授与されました。齋藤病院長からは、「来年度もより充実した予防医学についての教室を開催する予定です。ぜひご参加いただき、ご自身とご家族の健康維持に役立ててください」と挨拶がありました。



社会に学ぶ 14歳の挑戦

14歳の挑戦とは、富山県教育委員会が中学2年生を対象に実施しており、学外実習として5日間の職場体験や福祉・ボランティア活動等に参加することで、規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考えるなど生涯にわたってたくましく生き抜く力を身に付ける事を趣旨とする活動です。今年度は7月と9月の2回にわたって行われ、氷見市内の中学校から10名が参加しました。初日に齋藤志病院院長から「仕事をするこの大変さを学びながら、将来の職業選択に役立ててください。」と挨拶がありました。その後、院内各部署の業務について体験をしました。看護部での体験では、看護師と共に、患者さんの環境整備（シーツ交換など）や配膳の準備などの実践を行いました。また、へき地巡回診療に同行し、病院外での患者さんの診察風景や治療を行う場面にも立ち会いました。普段目にするこのない医療現場の現状を体験しました。体験をした生徒さんからは「医師や看護師の仕事だけでなく、いろいろな職種があり、その人たちがチームを組んで患者さんの治



- ① 平成27年7月6日(月) 7月10日(金)
南部中学校…女子4名参加
- ② 平成27年9月28日(月) 10月2日(金)
西部中学校…女子2名、
十三中学校…女子2名、
北部中学校…女子2名参加

療をしていることが分かりました。将来は看護師を目指していましたが、理学療法士のことを知り、将来の職業として参考にしたいと思えました。などの感想が聞かれました。今後このような事業に参加させていただき、多くの方に病院を知ってもらおうきっかけにしたいと思います。

外来患者さん

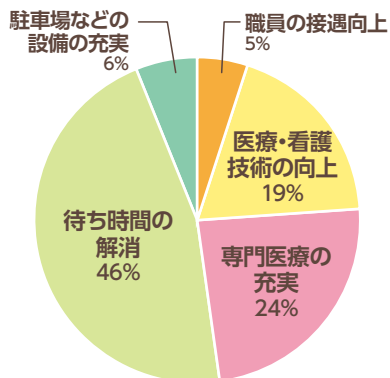
満足度調査結果

平成27年6月30日(火)、7月1日(水)の2日間に、外来患者さんを対象に患者満足度アンケート調査を実施しました。

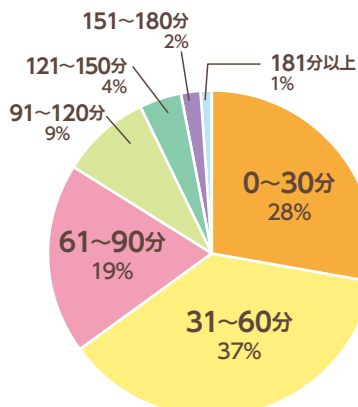
調査内容は、待ち時間やスタッフの対応設備についてなど患者さんの満足度の度合いやご意見を直接アンケート形式でお伺いし、外来診療の機能向上、医療サービスの向上を目的として行いました。

期間中のアンケート配布数は386件、患者さんからの回収数は272件(回収率70.5%)でした。調査結果から「当院への今後望むこと」については「待ち時間の解消が半数を占めていたため、昨年同様、「待ち時間の有効活用について」や、「予約時間枠内の予約人数の見直し」を検討することとなりました。今回の満足度調査結果を踏まえて、より良い安全で快適な診療を目指し、サービス向上に努めていきたいと考えています。

今後の当院に望むこと



診察までの待ち時間 (受付から医師の診察まで)



井口先生の 診察室から

呼吸器内科
准教授

井口
MASAHARU
IGUCHI
晶晴

●咳や痰の症状と呼吸器の病気

呼吸器内科が担当する病気は、肺炎や気管支喘息などよく耳にするものから、間質性肺疾患や肺がんといった診断や治療が容易ではないものなどさまざまです。これらのほとんどが「咳や痰」といった風邪の初期症状と似ているため区別がつきにくく注意が必要です。風邪だと思っても、このような咳・痰が2〜3週間以上改善しない場合は、お近くの医療機関で胸部レントゲン写真を撮ってもらうことをお勧めします。たばこによる咳と痰だと自分で思い込んでいたため受診が遅れ、あとで「肺結核」と診断された方もおられます。

●高齢者と肺炎

現在の日本における死亡原因の第3位が肺炎です。しかも肺炎で亡くなる方の9割以上が65歳以上の高齢者です。また肺炎で亡くなった70歳以上のうち約7割が誤嚥性肺炎だったと言われています。90歳以上だと約9割でほとんどの方が誤嚥性肺炎で亡くなっ

ているそうです。当院においても年々、誤嚥性肺炎で入院する患者さんが増加しています。

誤嚥性肺炎は、主に口の中の細菌・雑菌が唾液や食物と一緒に気管支から肺に入って起こります。これらが気管支や肺に入った時、普通は咳こんだり、むせたりして痰と一緒に吐き出すので肺炎にはなりにくいのですが、高齢者や脳梗塞・脳出血といった脳血管の病気をした患者さんなどは飲みこむ働き（嚥下機能）といいますが落ちていくため自覚症状がないまま誤嚥していることが多く、これを繰り返すうちに誤嚥性肺炎を発症します。また不眠症などでお薬を服用している高齢者の方も、夜間睡眠中に嚥下機能が低下し少量の誤嚥をおこなっている事があります。

●誤嚥性肺炎を予防しよう！

だれもが必ず年をとるため高齢化を予防することはできません。しかし脳梗塞や脳出血は、高血圧や糖尿病といった生活習慣（食事や運動など）に気を付け、治療中の方は通院やお薬を続けることで予防をしたり、悪化させな

いようにすることが可能だと思えます。高齢者が気をつけることでは、調理や食物の工夫（食べやすく飲みこみやすい大きさに切る、噛みやすい固さにする、とろみをつけるなど）、食事に集中する（食事中的の会話やテレビは控える）、食後の逆流予防（食後30分〜1時間は横にならない）、歯みがきや「うがい」などで口の中を清潔にするなどがあります。また普段からむせやすい人は主治医と相談してリハビリ（嚥下機能評価と訓練）をすることもいいかもしれません。

●おわりに

呼吸器内科は現在、私と山田真也医師の二人体制で診療を行っています。高齢者の誤嚥性肺炎は増加傾向で、当院では総合診療科や高齢医学科など他の内科医師も診療しています。

インフルエンザや肺炎球菌の予防接種も重症化を予防する効果があります。これらについてご相談は内科受付や病院総合窓口でお尋ねください。

井口晶晴 ★ 略歴

【略歴】

- 平成 7年 3月 高知医科大学（現高知大学）医学部卒業
- 平成 11年 3月 金沢医科大学大学院修了 博士（医学）取得
- 平成 23年 4月 金沢医科大学氷見市民病院 呼吸器内科科長
- 平成 26年 4月 臨床准教授、感染対策室室長、中央臨床検査部部長併任

【所属学会】

- 日本内科学会 認定内科医
- 日本呼吸器学会 専門医、指導医
- 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医、指導医
- 日本アレルギー学会 専門医（内科）
- 日本感染症学会 ICD（インフェクションコントロールドクター）
- 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医
- 日本結核病学会 結核・抗酸菌症認定医



禁煙外来の様子

第7回

広げようブルーサークルの輪inひみ

平成27年11月7日(土)午後1時30分から6階多目的ホールにおいて「広げようブルーサークルの輪inひみ」と題し市民公開講座が開催されました。



ブルーサークル講師 福田一仁先生

毎年11月14日は世界保健機構(WHO)が定めた「世界糖尿病デー」です。当日は世界各国で糖尿病に関する様々なイベントが開催されています。

当院でも、増え続ける糖尿病に関して市民の方々に予防と治療についての正しい知識と理解を深めてもらうため講演会を毎年開催しています。今年はその院内内分泌・代謝科と糖尿病委員会、そして氷見市医師会、氷見市健康課が共同で開催し、約50名の参加がありました。

今回は講師に福田内科医院の福田一仁先生と氷見市健康課の宇波淳子保健師を講師にお迎えし、講演が行われました。福田先生の講演では、日頃患者さんが疑問に感じていることへの回答や、それぞれに合った治療を早期に行うことの大切さ、世間に出まわっているたくさんの情報に振り回されないよう、病気に向き合い、適切な治療を行うていくことの必要性等、わかりやすくお話し頂きました。宇波保健師からは、氷見市の課題や対策についてお話し頂き、氷見市の現状や予防していくことの重要性を理解し、

考えるよい機会となりました。

また、ロビーでは減塩や低カロリーの食品サンプルやパンフレット等の展示、看護師による血圧測定や血糖測定も行われました。

講演に参加された一般の方や医療従事者の方からは「氷見市の現状について理解できませんでした。今後の食生活について見直すきっかけとなりました。」「合併症を防ぐため、今後から食事・運動療法を実施していきたい。」「他のスタッフにも内容を伝えて今後活かしていきたい。」「等の感想が寄せられました。今後も参加者の方に満足していただけたような講演会を目指し、努めていきたいと思っております。

私立医科大学栄養研究会

平成27年11月12日(木) 5:13日(金)、

第434回私立医科大学栄養研究会がホテルニューオータニ高岡で開催されました。

この会は日本私立医科大学事務部長会の下部組織として、今年4回開催され、今年度一泊研修は運営校の杏林大学医学部付属病院と協会事務局と協力し、当番校の当院が管理運営を担当しました。

全国から49校の参加があり、初来県の方も多く、富山の魅力を知って頂くよい機会となりました。初日は『栄養管理における医療の採算の有用性―長寿遺伝子から診る予防医学―』と題し、金沢医科大学



糖尿病・内分泌内科学 古家大祐教授よりご講演を頂きました。続いて研究班別検討会や低カリウムタスの紹介・試食を行いました。

2日目は、研究班別に『新人管理栄養士教育』、『嚥下食関連調査』、『業務委託・最新厨房機器調査』、『管理栄養士病棟業務調査』の発表と総括がなされ、これまでの成果をまとめた有意義な会となりました。今後も栄養研究会で得たことを当院の給食・栄養管理に反映させていきたいと思っております。

平成27年度
第2回医療安全研修会

平成27年11月26日(木)17時30分から6階多目的ホールにて医療安全活動報告が行われ、5部門からの医療安全に関する取組みについて報告がありました。

- (1)「小児の安全な酸素投与」
4階西病棟 長井富美子副院長
- (2)「内視鏡センターにおける鎮静剤使用に関する取組み」
内視鏡センター
宮下美紀子副院長
- (3)「転院時における患者情報の共有化」
地域医療連携部
森本さやか事務員
- (4)「MR室における事故防止啓発活動」
中央放射線部
向義博主任放射線技師
- (5)「配膳車・下膳車運用の見直し」



「新人教育と医療安全を兼ねた当社の取り組み」
シダックスフードサービス(株)
川口千恵マネージャ

各発表者からは、それぞれの部署での取り組みや効果などを具体的に分かりやすく報告され、受講した参加者からは「普段接することが少ない他部署の実状や努力、また工夫していることなどを身近に感じることが出来た」など多くの感想が聞かれました。今後も、このような職員同士が「医療安全の意識の向上」を図れるような研修会を開催していく予定です。

クリスマスコンサート

「イタセンパラ吹奏楽団」

平成27年12月12日(土)に看護部りんごステーション主催のクリスマスコンサートが行われました。ゲストに吹奏楽団「イタセンパラ」をお招きし、クリスマスソングはもちろんのこと皆さんの耳に懐かしい美空ひばりさんの「川の流れのよ」に、SMAPの「シエイク」、朝の連続ドラマ「まれ」の主題歌などを演奏・合奏しました。音楽は、リズム・メロディー・ハーモニーの三つから成り立つと言われています。ちょっと早いサンタさんか



らの音楽のプレゼントはリズムを体で感じ、メロディーで音楽の流れを感じ、ハーモニーは音楽の「和」を感じさせてくれました。参加された皆さんの心が温まって、自然と笑顔があふれていました。

平成27年度

富山県原子力防災訓練

平成27年11月23日(月)、平成27年度富山県原子力防災訓練が富山県、氷見市、射水市の主催で実施され、当院は、被ばく医療措置訓練及び安定ヨウ素剤の配布訓練に参加しました。

この防災訓練は石川県内で震度6強の地震が発生し、志賀原子力発電所2号機において、原子炉が自動停止し、放射性物質が放出されることを想定し行われました。当院では医師、看護師、放射線技師、薬剤師、事務員の10名が参加し、患者受入れ及び液状ヨウ素剤の調剤訓練を行いました。今回の訓練では避難中に発生した2名の負傷者の受入れ及び富山県立中央病院への転院搬送を行うことと、氷見市の住民が避難する際、一時集合場所に指定された灘浦小学校へ配布するヨウ素剤の調剤を行いました。



病院からのお知らせ掲示板

● マスク自動販売機の設置について

当院では、マスクの自動販売機を院内に3台設置しております。場所は、自動清算機横・救急外来入口横・2Fエスカレーター降り口です。マスク2枚入10円で販売しておりますので、インフルエンザなど感染予防のためにもご利用ください。



● Hospital Sound 「病院の小さな音楽会」

日時 平成28年2月13日(土)13時30分
場所 金沢医科大学氷見市民病院
1階 A受付前待合室

出演者 呼吸器内科 准教授 井口 晶晴
看護部 八箇 多恵 看護師
藪下 将司(特別ゲスト)

入院患者さんはもちろんのこと、一般の方も是非お越しください。

● 冬季の駐車場利用について

冬季は、積雪や凍結が起こり、駐車場や構内道路での転倒や自動車事故が多く発生します。当院でも職員による除雪作業を行いますが、少しでも少なくなるよう努力しておりますが、来院される皆様も、滑りにくい靴を履き、足元に十分注意して歩くなど転倒に気を付けていただきますようお願いいたします。

また、自動車で来院される場合は、雪などで視界が悪くなったり路面が凍結しスリップしたりしますので、駐車場や構内道路では最徐行を徹底していただきますようお願いいたします。

診療コラム

病棟紹介

3階東病棟

3階東病棟は、整形外科・胸部心臓血管外科・眼科の混合病棟です。

胸部心臓血管外科は、心臓や血管の病気等での心臓外科手術を行う患者さんが多く入院されています。それらの患者さんに対しては術後合併症予防に細心の注意を払い、身体精神状態の観察と患者さんの安全確保に努めながら治療、看護を行っています。また、手術侵襲の少ないステントグラフト留置術、下肢静脈瘤レーザー



焼灼術なども積極的にを行っています。

整形外科では、転倒などによって大腿骨頸部骨折、胸腰椎圧迫骨折の高齢患者さんが多く入院されています。治療はもちろん、住み慣れた自宅への退院に向けて医療従事者、リハビリスタッフ、地域連携室職員などと協力しながら退院支援を行っています。

眼科では高齢化による白内障手術目的の患者さんが入院されています。短期間の入院ですがデリケートな部位の手術のため、患者さんが不安を感じないように、患者さんに寄り添った看護を心掛けています。

3階東病棟の目標は次の3つです。
1. パスを活用した統一性のある質の高い看護を提供する。
2. 多職種と連携を行いチーム医療の提供により自宅退院を目指す。
3. リハビリと連携し早期離床を図る。
病棟スタッフは、これらの目標を設定することで、様々な診療科の疾患を持つ患者さんへの治療に関する高い知識と技術を日々磨いています。患者さんやご家族が安心して予定の治療を終えて退院することができますよう、多職種が情報共有しながらチームでサポートしています。

ICU

ICU(集中治療部)では、侵襲の大きな手術や救急外来からの重症患者、入院中に集中治療が必要になった患者さんを対象に呼吸、循環、代謝など生体機能が正常に回復するまでの治療を行っています。多様な病態を把握し、それに対して治療を行うためには幅広い分野の知識が必要であり、医師、看護師、臨床工学士など多職種の医療スタッフと協力し、24時間生命状況の監視を行い、手術



後や重症度の高い患者さんに迅速で的確な治療、看護を実践しています。部署目標として「患者さんに質の高い統一した看護の提供」「安心安全で個別性に応じた看護」を挙げています。私たちは生命の危機的状況にある患者さんの病態をアセスメントする能力を高め、スタッフ同士のチームワークを大切にし、また生命維持に必要な医療機器や薬剤など、高度な治療を受けている患者さんにとって入院生活がその人らしい生活に近づけられるよう、医師と相談しながら最善のケアの提供にも努めています。そして医療スタッフ同士が連携を図りながら、1日も早く回復できるよう全力でサポートしています。ご家族に対しても寄り添い、身体的、精神的ケアに努めご家族のアイモイを受け止めるように心掛け、患者さんの生命の安全を守りながら安心できる環境の提供を目指し、日々看護ケアを行っています。

患者さんのICUでの入院期間は短いですが、一人ひとりを看護していく中で患者さんが日々回復していく様子が、喜びややりがいにつながっています。



病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報は厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

まちかど



情報

氷見カレー学会

氷見カレー学会は、カレーによる地域おこしに賛同した市内の飲食店によって平成20年に結成され、現在20店舗が加盟しています。それぞれの店では工夫を凝らしたオリジナルカレーを提供しています。実際に、出前で氷見カレーを食べてみました。「ととほちカレー」は、魚のすり身といくつもの野菜がトッピングされたヘルシーなカレーで、ルーもじっくり煮込んであり、コクがありとても美味しかったです。



氷見カレーが写真で掲載されており、どれもとても美味しそうです。寒い冬の日には、氷見カレーを食べてほっこり温まってみませんか。
*「ととほち」とは氷見の方言で、小魚をすりみにしたもので、トトとは「魚」、ボチとは「餅」の意味です。

患者のご家族「手作り作品展示会」

患者のご家族からの、手作り人形を病院1階エントランスホールにおいて展示をしました。テーマは「ブタちゃん達の秋の大収穫祭」で、21体のぶたの人形達が収穫した野菜を使いごちそうを作っている様子です。すべてが手作りで、見る人すべての心が温まる優しい表情の作品でした。患者さんからは「やさしい表情がとても心が和みます。このような展示会があれば待ち時間も楽しくなりますね」との感想が聞かれました。当委員会では、今後もこのような展示会を行っていく予定です。



展示期間：平成27年10月17日(土)～30日(金)

病院医療サービス向上委員会

表紙について

冬の雨晴海岸の女岩を背に優雅に走る、観光列車の通称「べるもんた」です。この列車は、平成27年10月から、「走るギャラリー」をコンセプトに運行され、沿線の伝統工芸品「井波彫刻」や「高岡銅器」をイメージした吊り革の装飾物が特徴的な車内になっています。中に入るとまるでギャラリーを訪れたかのような雰囲気も味わえます。

正式には「ベル・メンター・ニュー・メール」と言い、フランス語で「美しい山と海」という意味で、実際に運行されているのは「壮大な山並みが美しい城端線」と「四季折々の雄大な海が美しい氷見線」です。土日みの運行ですが、季節ごとに変わる沿線の景色を楽しんでください。

編集後記

まだまだ寒い日が続いておりますが、暦の上では立春も過ぎ、春が少しずつ足音を立てて近づいて来ています。

さて、2016年はどんなことが起こるでしょうか？先のことは誰にもわかりませんが、暗い出来事の多い世の中で、今年は少しでもよい出来事や楽しいニュースを見つけて行ければいいなと思っています。

また、今年は金沢医科大学が氷見市民病院の指定管理者になってから9年目を迎える年になります。10年ひと昔とは言いますが、月日のたつのは本当に早いのだと実感しています。

今年もこの広報誌「かけはし氷見」を通じて患者さんと病院、地域と病院をつなぐかけはしになれるよう、編集委員一同力を合わせて頑張りますので、何卒よろしく願いいたします。

かけはし冬号編集委員 角目 志伸

■広報誌「かけはし氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけはし」となることを願って命名されました。